

学校教育 目標	夢と希望をもって、心豊かにたくましく生きる児童の育成
育成を目指す 資質・能力	○確かな知識・技能を身に付けようとする児童の育成 ○自ら考え、判断し、協働的に解決しようとする児童の育成 ○ともに心身を向上させようと挑戦を続ける児童の育成

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 全国学力・学習状況調査結果より、平均正答率は、全国・大分県を上回った(国語70p全国比+3.2 算数65+7 理科64p+6.9)。県学力定着状況調査より、平均正答率は、全国を上回ったが、算数・理科は、大分県を下回った。(国語68.5p+大分県比0.4 算数70.0p-大分県比0.2 理科62.0p-1.3)算数においては、伴って変わる二つの数量の関係を読み取ることが課題となった。理科においては、温度による金属の体積の変わり方を予測し表現することが課題となった。設問の意図を理解し、時間内に要点を的確に表現する記述力が不足している。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 各種学力調査の分析結果より、授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ79.4全国比-0.9 学級の児童生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている86.0全国比+1.1 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組むことができる73.9全国比-8.4 ○一方的な発表で終わることが多く、多様な意見をを比較したり、議論を深めたりする活動が不十分。 ○文章や資料から情報を正確に読み取り、自分の考えをまとめる経験不足。 ○個々の知識や技能は習得しているが、それらの関連性がまだ十分に理解不足。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・学び合い学習などにより、伝えることへの意欲は高まり、伝える力の中でも「書く力」は、確実についてきた。しかし、語彙力不足から、書くことに抵抗のある児童や、様々な課題に対する自分の考えをもてても、条件に合わせて書く経験が必要な児童もいる。 ・学び合い学習に加え、ICTを活用した協働的な学びを進めていく中で、人との関わりをもてるようになってきている。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・自分の考えをもつために、ワークシート・話型・ICTなどを活用し、自分の思いや考えを書いたり、説明したりする場を設けた。(R7 1学期末)授業中、思いや考えを書いたり、説明したりすることができた児童88% ・全教員で授業づくりの方向性を共有するために、個々に応じた指導法や授業改善について、協議し、共通理解を図った。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・学力定着を図るため、基礎・基本の徹底に加え、ICT機器を活用した補充学習や保護者と連携した家庭学習の習慣化等、個に応じた指導を継続している。 ・児童が安心して学習できるよう、「人間関係づくりプログラム」を通して、お互いに認め合い支え合う学校学級集団づくりに取り組んでいる。	

学力に関する達成指標

- 「単元末テストで80点以上の児童の割合を75%以上、50点未満の児童の割合を10%以下にする。」
○「児童アンケートで『学校が楽しい』と回答する児童の割合を70%以上にし、児童の心理的安全性を高める。」

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の 具体的 な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 「こどもたちが考え、活動する授業づくり～生徒指導の4つの視点を生かして～」 ・生徒指導の4つの視点を生かした授業研究 ・自分の考えを書き、説明する活動を仕組み「授業で自分の考えをもつことができる」児童の育成	
	〈取組内容〉 ・学習活動において、自分の考えを書き、説明する場を仕組む。 ・授業の目的や課題解決に合った話合いの場を設ける。	〈家庭・地域の取組内容〉 「学習のきまり」をもとに、家庭学習について家庭での声かけをする。
	〈取組指標〉 ・授業において、魅力ある授業を作り「授業は楽しく分かりやすい」指導を行う。 ・児童が自分の考えを書き、説明する活動を仕組む。	〈家庭・地域の取組指標〉 家庭学習の習慣を付ける。 学習環境づくりに心がける。 (時間・場所)
	〈検証指標〉 ・「授業中の先生の質問や説明がよく分かる」回答する児童の割合を85%以上 ・「授業中、自分の考えをもつことができている」と回答する児童の割合を80%以上 ・「お家での勉強(宿題など)をしている」と回答する児童の割合を90%以上	〈家庭・地域の検証指標〉 「お子様の家庭学習の状況をよく見ている」と回答する保護者の割合80%以上
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ・こどもが考えを出し合い、自分たちで解決する場の設定。 ・デジタルドリルを活用した弱点克服のためのスキル学習。 ・読み聞かせなど読書活動、図書館利用の推進。 ・様々な条件に合わせて視写したり書いたりする機会の設定。 ・ICTを活用した授業づくり。 ・家庭学習の充実。	